

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	「NPO 法人オールさこんやまの機能強化」委託	
事業の実施者	団体等	NPO 法人オールさこんやま、NPO 法人横浜プランナーズネットワーク
	行政	横浜市旭区役所区政推進課
事業の目的	旭区とNPO法人オールさこんやまが協働する団地再生の取組として立ち上げた「大学生入居事業」、「まちづくり方針検討会議」、「ちょこっと応援隊」（以下「区との協働事業」という）について、活動の担い手や資金を確保し、地域で自立して運営できるような仕組みづくりをする	
事業の内容	(1) ちょこっと応援隊の始動・フォロー (2) 事務局機能の検討 (3) 大学生入居事業の継続支援 (4) 報告書の作成	
役割及び責任分担等	別紙資料参照	
実施期間	令和2年9月25日から令和3年2月28日まで	

記入日	令和 3 年 4 月 28 日
記入者	・団体等名： 特定非営利活動法人オールさこんやま  ・記入責任者 理事長 氏名： 林 重克 連絡先： 045-744-6585
	・団体等名： 特定非営利活動法人横浜プランナーズネットワーク  ・記入責任者 氏名： 古居みつ子 連絡先： 045-904-0495
	・部署名： 横浜市旭区役所区政推進課  ・記入責任者 大規模団地再生担当 氏名： 馬立、中島 連絡先： 045-954-6027

**別紙資料** 役割及び責任分担等

事業項目	甲（NPO 法人オールさ こんやま）の役割	乙（NPO 法人横浜プラ ンナーズネットワー ク）の役割	横浜市（旭区）の役割
オールさこんやまの 機能強化	事業主体として、地域 の関係団体との調整 を行う	オールさこんやまに 対して事業の自立化 や地域活動の担い手・ 活動資金の確保等に ついて課題解決策を 提案し、その実践をサ ポートする	乙に対して横浜国立 大学やUR 都市機構、 大学生入居事業を支 援する専門家とオー ルさこんやまの関係 構築などをサポート

## 2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないました。

### ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		オール さこんや ま	横浜プラン ナーズネッ トワーク	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	B	B
5	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	A	A

### ②事業実施段階

		オール さこんや ま	横浜プラン ナーズネッ トワーク	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	B	A	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	A	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	A	B
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B	B

(次項あり)

### ③ふりかえり段階

		オール さこんやま	横浜プランナ ーズネットワ ーク	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	B	B
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	B	B	B
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	B	A	B

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成しました。

<b>事業の計画づくり</b> (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたこと】</b> ○事業主体のオールさこんやまが考える年度別の取組事項を整理し、3者で共有することができた。
<b>【課題】</b> ○協働事業であることの理解を図ることや相互理解を丁寧に行いながら、議論を進めることが必要である。
<b>事業実施</b> (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたこと】</b> ○オールさこんやまの現状の運営状況や課題認識 ○大学生入居事業の関係者会議を通じて、ステークホルダーとの連携体制の構築
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> ○協働事業としてそれぞれの立場を尊重し役割分担をしながらも主体性を持って取り組むこと ○目的を達成するうえでの課題の共有と解決に向けた取組内容の整理
<b>事業の成果</b> (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
○よこはま夢ファンドを申請し、次年度の事業費の目処が立った。 ○入居大学生の募集活動を実施できた。 ○次年度の事業計画が策定できた。 ○大学生が協議に参加することにより、新たな視点が加わり、議論が活発化した ○議論を進めるためのステップとして、検討会の枠組みが発足した。またその過程で地域に新たな担い手が加わった
<b>自由記入欄</b> ○今年度は事務局のあり方の議論や相互理解を丁寧に進める中で、大学生や地域で新たな担い手も加わり議論を活発に行うことができた。また検討部会の立ち上げ等議論の進め方が整理された。 次年度は事務局の試行をしながら、運営の仕組み化を進める。また大学生入居事業では、大学生と地域の大人が、オールさこんやまの機能強化のために議論し、取組を実践する枠組みを構築していく